



## 「挑み続ける」西條中

令和五年度生徒会は「挑」をテーマに掲げ、活動に取り組んでいる。西條パワーアッププロジェクトの取組を紹介し、挑み続ける生徒会の姿を追う。



西條パワーアッププロジェクトは、様々な生徒会活動の成果をポイント化する試み。生徒が自主的に行動できること、学級で団結して取り組むことがねらい。

### 西條パワーアッププロジェクト

挨拶運動ではクラス別に男子がピロティ、女子がAホールで挨拶をする姿が見られた。アルミ缶回収は六月に行われた。ボランティア委員会がアルミ缶、ペットボトルのキャップの回収を呼びかけ、参加率を競った。このほか、球技大会やエプロンチェック、図書室の利用者数等もポイントとして加算される。ポイントの多いクラスは表彰される。

### 「互いの絆強く」

新聞部は前期生徒会執行部にインタビュをした。プロジェクトを通して。

## 運動会 「もっと先」には仲間への感謝が

「Plus Ultra(もっと先へ)勝利への方程式 挑戦×絆×信念」のテーマの下、九月二日に運動会が行われた。



応援合戦で優勝した青团

Yさん 生徒同士の絆が強くなった。  
THさん 新たなよさに気がつくことができた。  
Oさん 活動に参加する人が増えた。  
「一・二年生にどんな西條中をつくってほしいか。」  
Sさん 仲間と目標を達成できる学校。  
TRさん 「挑」の基礎をつくることのできた。発展させた取組を継続し、全校生徒の皆さんには全力で取り組んでほしい。

### ふるさと西條に「ありがとう」



二年生は「社会に学ぶ『十四歳の挑戦』」で、七月三日から七日までの期間、事業所で活動を行った。有限会社社東海製作所では、多

### 西條春秋

くの人の触れ合いと学びがあった。初日はとても緊張していたが、職場の方々がおかげで緊張がほぐれた。職場の人たちが丁寧に分かりやすく教えてくださった。事業所に行く機会があればお礼を言いたい。

頑張った新聞ができたときはとてもうれしかった。入部したときは三年生の先輩しかおらず、先輩が引退したらどうしようか迷っていた。先輩が引退してからは自分で企画をして調べたりインタビュをしたりして一人でもつくることができ、自信がもてるようになった。ありがとうを言いた

■青团が応援の部優勝  
「一・二年生の頑張っている姿を見ると頑張れた。みんなですべての応援優勝」(Tさん)「一・二年生もしっかりついてきてくれて優勝できてよかった」(Nさん)  
■競技の部は青团が優勝  
「青团のみんなで心を一つに切磋琢磨し、競技の部で優勝できてよかった」(Yさん)  
■マスコットの部も青团

「夏休みも毎日来て制作したので、うれしかった」(TKさん)  
■行動の部優勝は青团  
「一・二年生が正しい行動を意識して参加してくれたおかげ」(Nさん)  
「短い間だったけど協力して教えられてよかった」(TAさん)  
TR実行委員長は「計画的に取り組み、時間を見て行動したのがよかった」と話した。

た(K)▼先輩が引退する。これからももっと本格的な新聞づくりをできるように基本を学びたい(M)▼小学校で行ったプログラミングが大好きだったので新聞部に入った。これからの活動が楽しみだ(西)

